



2016年
3月19日(土)
12:00~13:00

会場
甲府富士屋ホテル
(第2会場)

ランチョンセミナー2

Cytokine adsorbing hemofilter (PMMA,AN69ST)の可能性

座長

法政大学生命科学部 環境応用化学科

山下 明泰 先生

演題1

Hemofilterの素材の相違によるクリアランス特性

札幌医科大学附属病院 臨床工学部

千原 伸也 先生

演題2

急性血液浄化における吸着特性膜hemofilterの デバイスマネジメント

埼玉医科大学国際医療センター MEサービス部

塚本 功 先生

整理券
発券情報

日時：3月19日(土)8:00～(なくなり次第終了)

場所：甲府富士屋ホテル1階 総合受付付近

本セミナーは整理券をお持ちの先生から優先的にご案内致します。整理券はセミナー開始5分後に無効となりますのでご注意ください。

Hemofilterの素材の相違によるクリアランス特性

札幌医科大学附属病院 臨床工学部 千原 伸也 先生

【抄録】

腎傷害やショックに対し用いられるCRRTでは小分子量物質はもちろんであるが、本邦では種々のサイトカインなどの中分子量物質もターゲットとして施行されることが多い。生体内のメディエータ除去効率を増大させるためには膜孔の増大、濾過量の増大、膜への吸着といった方法がある。いわゆるhigh-volume CHFは濾過量増大によるメディエータ除去効率増加を目的とした血液浄化療法であるが、機械的および医療経済的な制限がある。一方、hemofilterの吸着特性を利用したメディエータ除去としてはサイトカイン吸着特性を有するAN69ST膜やpolymethyl methacrylate (PMMA)膜を用いたCRRTが行われている。本セミナーでは、日常臨床で用いられる、polysulfone (PS)膜、AN69ST膜、PMMA膜の小分子から中分子量物質の除去特性や除去機序について水系実験および臨床データを用いて紹介する。

急性血液浄化における 吸着特性膜hemofilterのデバイスマネジメント

埼玉医科大学国際医療センター MEサービス部 塚本 功 先生

【抄録】

急性血液浄化で持続的腎機能代替療法(CRRT)は最も選択される一技法であり、救急・集中治療領域における循環動態が不安定で重症度が高い症例に対して長時間かつ連続的に施行される。その際、使用されるhemofilterは数種類あり、膜素材によって溶質除去能、濾過能および吸着能などの特性が異なる。例えば、PMMAとAN69ST膜の2種類のhemofilterを使用した場合に敗血症で問題となるメディエータの吸着特性を有することが報告されている。では、これらの吸着特性膜を有効に使用するための技術的課題とは何かを考えると、はまり込み吸着によって吸着する場合、一般的には膜寿命に難点を示す場合が多いと思われる。つまり体外循環を用いたCRRTは血液を導出して種々の操作が行われるため、トラブル発生を起さず適切かつ安全な治療を実施するためのマネジメントが重要であるといえる。本講演では、急性血液浄化における吸着特性膜hemofilterのデバイスマネジメントとして、これまでの知見と経験を交えて解説したい。